

[論文]

メキシコ市における今日のホームレス問題 — 1990年代にストリートチルドレンであった子どもたちのその後 —

小松 仁美*

要 旨

メキシコ市ではホームレスが貧困問題の一つとして喫緊の課題となっている。2011-2012年に全体の半数以上を占めた18-40歳の若中年層ホームレスに着目すると、彼・彼女らは1990年代に大量のストリートチルドレンとなった層と重なる。

新たにストリートチルドレンとなる子どもが大幅に減少した一方で、路上において成人年齢に達し、その後も路上生活を継続する元ストリートチルドレンのホームレスが相当数に達している。

彼・彼女らは、支援の不十分さと成人年齢を境にした打ち切り、麻薬の蔓延、成人後の限定的な支援など複合的要因により路上に居続けることとなった。また、彼・彼女らは初等教育開始前後にストリートチルドレンとなったために低学歴であり、そのために社会復帰がより困難となっている。

本稿では、ストリートチルドレンから若中年層ホームレスになった層への支援においては、長期の定住・就学支援が重要となる点を示唆した。

Key words：ストリートチルドレン，ホームレス，メキシコ，経済危機，低学歴

はじめに

COPRED（メキシコ市差別撤廃委員会）によると、メキシコ合衆国首都メキシコ市（892万人弱）¹⁾では今日、ホームレスが都市における貧困問題の一つとして喫緊の課題となっており、20歳半ばから40歳半ばの若中年層がホームレス全体の半数以上を占める²⁾。課題解決に向けて、若中年層ホームレスへの対応が重要となろう。

ホームレスは主に路上生活者を指すが、全ての年齢層を含み、未成年者と高齢者は路上労働者も含む。年齢層により支援の対象が異なり、統一的な定義はない。人数や生活実態などホームレスの概況の把握は困難である³⁾。しかし、ホームレスに未成年者つまりストリートチルドレンを含むことは、従来から想定される成人後に路上生活に至った者のみならず、幼少期に路上で労働・生活を開始したために成人になってからも問題状況が継続する者を支援の射程に入れられよう。

* 淑徳大学社会調査助手

ストリートチルドレンは1980年代の経済危機を契機として1990年代を中心に1万人を超えていた(DIF 2004, 畑 2001, UNICEF 1996)。当時のストリートチルドレンの多くは、1980年代末から開始され1990年代に拡充された支援が質・量ともに十分でなかったために、定住・就学・就業・自立支援⁴⁾や家族への再統合支援⁵⁾を受けても社会復帰には至らず、路上において成人し、その後も路上で労働・生活などをし続けた。その結果、ホームレスになった者がいる。彼・彼女らは現在、20歳半ばから40歳半ばであり、若中年層ホームレスの年齢層と重なる。ストリートチルドレンはその後の経済状況の変化、その支援の拡充、奨学金給付や条件付き現金給付政策⁶⁾による未成年者の就学機会の向上(原 2008, 米村 2004)などにより減少している⁷⁾。

今日の若中年層ホームレスは、1990年代に大量に生み出されたストリートチルドレンの継続的な問題ではないだろうか。このような問題意識から、ホームレスを現行の支援対象者の分類を参考に、次の3つに分類する。路上で労働・生活する未成年者をストリートチルドレン、成人したストリートチルドレンのうち路上生活者を元SC型ホームレス(以下、元SC型)、成人後に路上生活に至った者を従来型ホームレス(以下、従来型)とする。本稿では、元SC型に焦点をあてて若中年層ホームレスへの支援を検討したい。

現行のホームレス支援を概観し、従来型と比べて元SC型がより困難な状況に置かれることを示した上で、この元SC型が生み出される背景を考察し、元SC型が初等教育就学期間あるいはその前からストリートチルドレンになり低学歴であることからホームレス支援における元SC型への定住・就学支援の必要性について示唆したい。

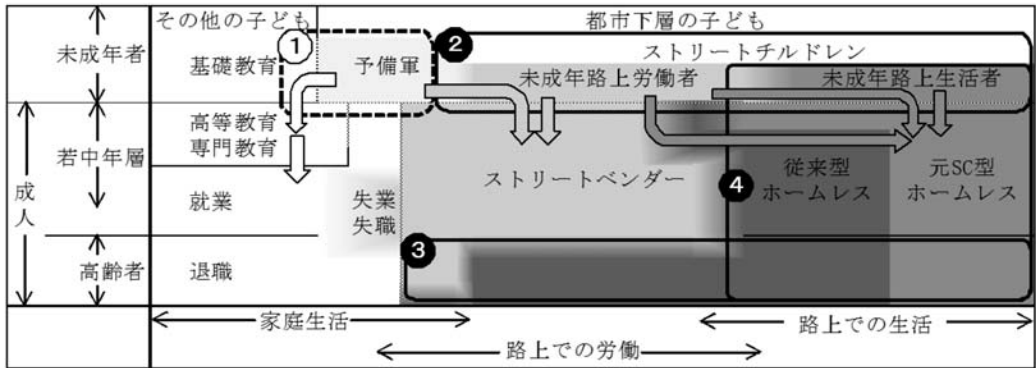
I メキシコ市におけるホームレスの問題の所在⁸⁾

1. ホームレス支援の構造とその課題

ホームレスは2008年頃より極度の貧困状況を示す問題の一つとして政策課題となったが、その支援の制度・施策は近年に未成年者を含むよう変更したとおり変遷しており、その定義は定まっていない。そのため、数量的に実証することは容易ではなく、実態把握が困難である。

一方で、その支援は社会開発事務局(SEDESOL)やメキシコ保健省(Secretaría de Salud)をはじめ6つの行政機関によって担われ、12のプログラムが運営されている。現行の支援は、図1に示したとおり年齢層によりホームレスとする対象者層が異なり、支援内容が異なる。

未成年者に対しては家族総合発展計画(DIF)や社会開発事務局などによる未成年者専門のプログラムが運営される。大人による適切な保護や養育を必要とし、基礎教育を受けることなど特有の課題を抱え、大人とは異なる対応や支援を要することから、支援が多面的である。①ストリートチルドレンの予備軍を対象とする奨学金や条件付き給付金などのストリートチルドレン化の予防に資する支援から、②路上生活者および路上労働者とそれらの予備軍を対象とする定住やソーシャルワークなどが実施される。これらにより、子どものストリートチルドレン化の予防、



- ①奨学金・条件付き現金給付など就学支援とストリートチルドレン化の予防に資する支援
- ②ストリートチルドレン支援とその予防支援, ③高齢者のホームレスへの支援, ④路上生活者への支援
- ◻: 都市下層の子どものうち就学機会を得てより安定した就業機会を得る過程
- ◻: ストリートベンダーとしてのスキルを身につけて都市下層として再生産される過程
- ◻: 都市下層の子どものうち就学・就業機会を十分に得ず元SC型ホームレスに至る過程

図1 ホームレス支援にみる年齢層別の支援対象

ストリートチルドレンとなった子どもの福祉の向上, 元SC型への移行の予防がなされる。また, ③高齢者に対しては路上生活者を中心に路上労働者へも支援が展開され, 定住や就業トレーニング, レクリエーションなど福祉的な支援が実施される。一方で④高齢者を除く成人に対する支援は, 限定的である⁹⁾。医療や薬物依存対策を中心とし, その他に出生登録や緊急一時支援など, 全ての路上生活者を対象としたものである。

特に, 路上で労働・生活する未成年者であるストリートチルドレンは, 18歳までに, 就学機会を得てより安定した就業機会を得たり, ストリートベンダー (以下, ベンダー)¹⁰⁾ として稼ぐスキルを身につけたりできなければ, 定住・就学・就業支援を始めとする手厚い支援は受けられなくなる。成人年齢を境に, 未成年路上労働者は生計手段を得られない場合は路上生活に至りやすく, 未成年路上生活者は限定的な支援のためにより困窮しやすい。

時間の経過とともに年齢層が変わると問題状況が同じあるいは継続的であるにもかかわらず, 受けられる支援が異なり, 一貫した支援が受けられない状況は政策上の改善課題といえよう。

2. 本稿におけるホームレスの定義と問題関心

COPREDによれば, 2011-2012年においてホームレスの半数以上を18-40歳の者が占めた。若中年層ホームレスへの支援が, 今日のホームレス問題の解決に向けて重要と考えられる。若中年層ホームレスには, 未成年の段階で路上での労働や生活を開始したことにより成人の路上生活者になった者と, 成人後に路上生活に至った者とが含まれる。

ところで, 詳細は後述するが, 1980年代の経済危機を契機として1990年代を中心に大量のストリートチルドレンが生み出された (DIF 2004, 畑 2001, UNICEF 1996)。その大部分は支援が十分に整っていなかったために未成年の段階から路上生活に至ったり, 路上での労働を未成年から

開始して18歳を超えても継続するなかでより困窮して路上生活に至ったりした。1990年代のストリートチルドレンは、若中年層ホームレスと年齢層が重なるのみならず、正確な把握はできないものの相当数が若中年層ホームレスになったと考えられる。

若中年層ホームレスの考察にあたり、ホームレスを、路上で労働・生活する未成年をストリートチルドレン、成人したストリートチルドレンのうち路上生活者を元SC型ホームレス、成人後に路上生活に至った者を従来型ホームレスに3分類する。元SC型と従来型は、統計上は分類されないが、生育歴や行動形態、支援へのアクセスなどが以下のように異なる。

元SC型は、ストリートチルドレンになった年齢や経緯により差異はあるものの、家庭生活の経験が短いために、シャワーやトイレを適切に使い身体を清潔に保つ、包丁や炉を用いた簡単な調理など様々な生活場面での困難や課題を抱える。生活場面での困難や課題のために、路上での労働や生活に至った要因を取り除いたとしても社会復帰が容易ではない。また、後述するが就学経験がない／短いことにより、就業支援以前に就学支援を必要とする。2-3年と限られた支援期間では、就学・就業支援を終了することが難しい。

加えて元SC型は、年齢上は主たるストリートチルドレン支援の対象外となるが、生活や労働を共にしてきたストリートチルドレンの仲間がおり、成人後もその仲間集団に属する傾向がある。元SC型が20代と比較的若く仲間と共に行動する場合、成人ホームレスを支援する者からはその見た目や行動様式からストリートチルドレンとみなされるために、成人のホームレス支援を受けにくい。元SC型は、支援の空白地帯に置かれるのである。

他方、従来型は、幼少期における家庭生活の経験から生活場面で必要とされるスキルを多少なりとも身に付けており、短い場合も含めて就学経験があることでより速やかに就業支援に移行しやすい。また、その大部分は単独行動または成人のホームレスと行動する傾向から、成人のホームレス支援を受けやすい。

しかしながら、先に述べたとおり、未成年者や高齢者を除くとホームレスが受けられる支援は限定的である。元SC型と従来型は、就業・自立のために入所できる定住施設が少なく、支援期間が短いために、社会復帰が困難な状況におかれる。特に、元SC型は従来型と比べて生活場面での困難や課題、就学の必要性から短期間での社会復帰がより難しく、成人のホームレス支援にアクセスし難いために、路上での生活をより長期化させやすい。

若中年層ホームレスのうち、元SC型はより困窮した状況に置かれる。そこで、若中年層の元SC型ホームレスに焦点をあてる。

II 元SC型ホームレスが生み出された背景

1. ストリートチルドレンの人数の推移

若中年層の元SC型ホームレスが生み出された経緯を1990年代のストリートチルドレン問題に

さかのぼって検討したい。

ストリートチルドレンはメキシコ市において、現在、ホームレスの未成年者に位置づけられるが、ホームレスに先立って社会問題化し、1990年代から独立した政策課題となっていた。ストリートチルドレンは、路上で労働・生活などする18歳未満の未成年者を指し、主に路上労働者と路上生活者とに分類される。しかし、自身と家族の経済状況や、生業であるベンダーの規制といった社会状況などのために非常に変動的であり、明確に分類し難い。1995年の実態調査においても分類に混乱が見られ、ホームレス同様にストリートチルドレンの人数は正確に把握し難い。

精緻ではないがストリートチルドレンの人数を表1に示す。ストリートチルドレンは、メキシコ市とCOESNICAおよびUNICEFによる調査の結果、問題状況が明らかとなり、政策の対象となった。行政機関として家族総合発展計画による支援が開始され、現在も行政による支援プログラムを中心的に担うことから、同機関による統計を中心にまとめた。

表1から次のことが読み取れる。ストリートチルドレンは1990年代前半に急増し、1990年代後半に増加はやや緩やかになり、2000年頃を境に減少に転じ、2000年代は緩やかな減少傾向にある。以降のデータが欠けているものの、現在は1万人を下回ると推測される¹¹⁾。未成年路上労働者は大部分を占め、1990年代に一貫して著しく増加し、1999年以降のデータが欠けているものの、2000年代以降に通増または減少に転じたと推測される。より劣悪な状況におかれる未成年路上生活者は少数ではあるが、1990年代前半に急増し、1990年代末から2000年代初頭の間に激減した。

表1 メキシコ市のホームレスの人数の推移

	未成年路上労働者	未成年路上生活者	ストリートチルドレン総数 ^{*4}	成人路上生活者 ^{*5}	調査主体
1992	10,152	1,020	11,172	-	COESNICA ^{*2} とUNICEF
1995	^{*1} 11,514	^{*1} 1,851	13,373	-	DF ^{*3} とUNICEF
1999	13,319	1,003	14,322	-	DIFとUNICEF
2002	-	-	10,650	-	DIF
2006	-	-	10,451	-	DIF
2007	-	256	-	1,878	DIF-DF
2008	-	123	-	1,405	DIF-DF

COESNICA (1992), DIF (2006: 4), UNICEF (1996) および COPRED の「ホームレス人口」(2018. 6. 30.), http://www.dif.gob.mx/noticias/_ver_noticia.asp?id=2 (2007. 4. 11.) に基づき筆者作成。

※1 ストリートチルドレンの総数から記載されていた割合に基づいて筆者算出。

※2 メキシコ市や民間支援団体などの協同による調査委員会。

※3 Distrito Federal (連邦特別区) の略称。DFは2016年にメキシコ市へと変更。

※4 1992・1995年はストリートチルドレンの多い地点をスクリーニング後にそれら地点で質問紙調査した結果であり、それ以外の年は人口統計からの推計による。なお、ストリートチルドレン総数は未成年路上労働者と未成年路上生活者の合計である。

※5 他機関による推計ではより多い人数が示されているが、ここでは同一行政機関による推計を参考として示した。

増減はあるものの1990年代から2000年代半ばにかけてストリートチルドレンが1万人以上で推移することから、毎年、一定の未成年者がストリートチルドレンとなったと考えられる。それと同程度のストリートチルドレンは、一部が社会復帰する一方で、大部分が支援の不足から路上生活に至った後に成人年齢に達したり、路上労働者のまま路上で成人年齢に達したり、その後に支援のさらなる不足から路上生活に至ったりして元SC型になったと推測される。なかでも1990年代に1千人以上で推移した未成年路上生活者からは、毎年、相当数の元SC型が生み出されたであろう。

2. ストリートチルドレン支援を行う民間支援団体の不足

以下では、若中年層の元SC型ホームレスの生み出された背景を1990年代に大量に生じたストリートチルドレンへの支援から考察する。

ストリートチルドレン支援は、公立定住施設、活動の実態把握が困難な多数の教会や草の根の市民活動、一部の財団法人および日本のNPOにあたる政府機関に登録される民間支援団体 (Institución de Asistencia Privada)¹²⁾ によって担われる。活動把握が可能な民間支援団体は全504団体のうち、2006年時点においてストリートチルドレン支援を登記簿上に記載していたのは、表2にあげた15団体であった。

表2 ストリート・チルドレン支援を行う民間支援団体

設立年	民間支援団体名
1918	Fundación Clara Moreno y Miramon
1979	Hogares Providencia
1982	Casa de los Niños de Palo Solo
1988	Centro de Educación Infantil para el Pueblo
1988	Fundación Casa Alianza México (カサ・アリアンサ)
1989	Fundación Emmanuel
1989	EDNICA (エドゥニカ)
1990	Fundación Dejame Ayudarte
1990	Fundación para la Protección de la Niñez
1992	Programa de Teatro Callejero
1993	Fundación Pro Niños de la Calle
1993	Ayuda y Solidaridad con las Niñas de la Calle
1994	Fundación de Apoyo a los Programas en Favor de los Niños de la Calle de la Ciudad de México
1997	Fundación Dar Y Amar (Casa DAYA)
2001	Fundación Casa de las Mercedes

<http://www.jap.org.mx/iaps/media/others/Diriap/dciap400.pdf> および <http://www.jap.org.mx/iaps/media/others/others/Diriap/dciap100.pdf> (2006.9.26.) より筆者作成。

民間支援団体による支援は、ストリートチルドレンのおよそ7割を男子が占めたことから、男子を対象に開始され、現在も男子が主な対象である。1990年代半ばには女子へも対象が広げられ、1990年代後半には妊娠・出産・育児の専門的支援が開始された。支援内容は、衣食医の直接サービス提供にはじまり、定住・就学・就業および家族への再統合の社会復帰支援のほか、HIV/AIDSや薬物依存を専門とするケアプログラムなどに拡充され、民間支援団体間の協力・連携も図られるようになった。

しかし、支援過程において定住施設を必要とする1千人を超える未成年路上生活者を含む1万人以上のストリートチルドレンに対して、施設や職員は圧倒的に少なかった¹³⁾。

ストリートチルドレン支援は1990年代を通して社会復帰を支えるには十分ではなかったものの、何もしなければ生きながらえることも難しかった彼・彼女らの生存を支え続けた。元SC型の発生は、個々の民間支援団体およびその職員らの懸命な働きかけによって、ストリートチルドレンが生存できた結果と考えることもできよう。最たる権利侵害が生命を奪うことだと考えれば、十分とは言えなかったものの民間支援団体が果たした役割は大きい。

3. 元SC型ホームレスを生み出した支援と社会状況

以下ではより詳細に、ストリートチルドレンが支援を受けながらも元SC型へと移行した背景をその成育歴や彼・彼女らを取り巻く当時の社会状況を踏まえて考察したい。

ストリートチルドレンは、幼少期から家庭内暴力の経験や薬物依存、労働の強制といった不適切かつ劣悪な養育環境に置かれてきた。自らの要望を受け入れられる経験が乏しく、要望を言葉で表明することが難しい。しばしば大声での威嚇、殴る、蹴るなどの暴力的表現を用いるため、長期的に良好な人間関係を築き難い。また、自己肯定感が低く、他者への信頼感も低い。特定の職員と関係を築けるようになって、その職員不在時に不適切な言動により他の利用者と喧嘩やトラブルを起こし/起こされたことを機に、支援からドロップアウトするケースは少なくない¹⁴⁾。

ストリートチルドレンはその生育歴のために支援を継続的に受けることが難しかった一方で、路上で容易に稼ぐことができた。El Universal紙によるとストリートチルドレンの77.7%が最低賃金の2倍以上の収入を得ていた。最低賃金は露天で飲食すれば1-2日分の食費となり、最低賃金の1-1.5倍程度で簡易宿泊所に1泊できた。彼・彼女らはある程度の生活の糧を得ていた。こうした状況下で、彼・彼女らは支援を受けることで衣食医への支出を削減できた。支出を抑えられるようになり、生きる上で必要とする最低限の収入を得るためだけに働いたり、これまでどおり稼いで生活費以外に出費したりできるようになった。すなわち、支援に依存しながらある程度の生活を享受できていたのである。

メキシコ全体が麻薬戦争へ向かうなか路上にも薬物が蔓延しはじめ、ストリートチルドレンはシンナーやマリファナ、クラック、LSDなどを購入・使用するようになった。薬物依存は、彼・彼女らの生命と生活の質を著しく悪化させる深刻な問題となった。

民間支援団体は、社会復帰せずに路上で労働・生活を続け、薬物に興じる者に対して、支援を停止するなどの策を講じた。しかし、支援の停止は生命や生活の質に直結するため、支援の停止と再開が繰り返された。ストリートチルドレンは一定期間をあげれば支援を再び受けられると学習した。1990年代を通じてその停止と再開が繰り返された。

ところが、時間経過に伴い彼・彼女らが18歳になるとそれまでとは異なり、支援は再開されなかった。支援の拡充過程においてストリートチルドレンから随時、十分に稼ぐスキルのない、極度に薬物に依存した大量の元SC型が生み出された¹⁵⁾。元SC型は、支援の打ち切りに伴いそれまで支援により抑えられた支出を補填する必要に迫られた。荷物運びなどの単純な仕事を得られなければ、窃盗や薬物の売買などに手を染めた。元SC型の売人は路上の仲間に薬物を売り、ストリートチルドレンと元SC型のあいだのさらなる薬物蔓延を招いた¹⁶⁾。元SC型は違法な仕事と薬物の蔓延に伴い、20-30代で刑務所や病院に収容され、あるいは死に至るようになった¹⁷⁾。

このように支援を打ち切られて困窮する元SC型を、より若年のストリートチルドレンは目の当たりすることで、18歳までに社会復帰する重要性を認識するようになった¹⁸⁾。また、薬物蔓延に伴い路上の労働・生活環境が悪化し、都市下層の子どもはストリートチルドレンになることへの危機感を強めた¹⁹⁾。条件付き現金給付などが加わり、徐々にストリートチルドレンの人数は減少した。この減少に伴い一人あたりの支援は充実し、社会復帰がより円滑になり、さらにストリートチルドレンが減少した。

一方で、施設や職員の不足と社会状況とが関連しながら生み出された大量の元SC型は、成人のホームレス支援を受けられず社会復帰できないままに、薬物販売相手となるストリートチルドレンもその仲間集団の構成員も減るなか路上に取り残され、より劣悪な状況で路上生活を継続することとなった。

Ⅲ 元SC型ホームレスの低学歴問題の所在

1. 元SC型ホームレスの低学歴の背景

元SC型は薬物依存を抱え、より困窮した状況に置かれる。この背景には、彼・彼女らの低学歴が関連すると考えられる。

COPREDはホームレス問題の根幹の一つに低学歴を挙げるが、ホームレスの低学歴は一般的には従来型が想定されよう。低学歴であるために、安定的な仕事に就くことが難しく、病気や怪我、失職などと同時に住居を失いやすいためである。

しかし、これまで記述してきたとおり、若中年層ホームレスには元SC型が相当数、含まれると考えられる。ホームレスの低学歴は路上での労働や生活のために就学が困難となったストリートチルドレンから派生する元SC型の問題と捉えることができよう。

そこで、元SC型の低学歴の背景をストリートチルドレンになった年齢と初等教育への就学の

観点から考察する。表3に1992年と1995年のストリートチルドレンの実態調査から年齢別集計などを示した。

表3からは次のことが読み取れる。0-5歳は1992年の78人から、1995年の2,397人へと激増した。3年間で初等教育未就学児が大量のストリートチルドレンになった。また、1992年調査の0-5歳の78人と1995年調査の6-8歳の2,073人との比較から、3年間におよそ初等教育開始後低学年のあいだにおよそ2千人がストリートチルドレンになったと考えられる。さらに、1992年調査の6-8歳の469人と1995年調査の9-11歳の1,852人との比較から、3年間におよそ8歳に達すると初等教育の終了を待たずして1千人以上がストリートチルドレンになったと考えられる。

1992年から1995年にかけて11歳以下のストリートチルドレンが増加し、なかでも5歳以下が激増したのである。1982年の債務危機に続き1986年のメキシコ大震災とその後の経済のマイナス成長、1994年の通貨危機などが都市下層の生活に打撃を与え続けたのであろう²⁰⁾。また、元SC型やストリートチルドレンのカップルが路上において子どもを設け、生まれながらにしてのストリートチルドレン、いわゆる「2世」が誕生し始めていた²¹⁾。

1990年代のストリートチルドレンは、当時の都市下層が置かれた経済社会的背景により、初等教育開始前から初等教育期間内にストリートチルドレンとなった者を大量に含んでいるのである。

表3 1992年と1995年のストリートチルドレンの実態調査の性別・年齢別集計

		1992年の実態調査		1995年の実態調査		1992-1995年の増加率
		人数	割合	人数	割合	
合計		11,172	100.0	13,373	100.00	19.70
性別	男	8,044	72.0	9,161	68.50	13.89
	女	3,128	28.0	4,212	31.50	34.65
年齢	0-5歳	78	0.70	2,397	17.92	2,973.08
	6-8歳	469	4.20	—	—	—
	9-11歳	2,201	19.70	—	—	—
	6-10歳	—	—	3,477	26.00	—
	12-14歳	4,134	37.00	—	—	—
	15-17歳	4,290	38.40	—	—	—
	11-15歳	—	—	4,547	34.00	—
年齢再掲	6-8歳	469	4.20	2,073	15.51	342.00
	9-11歳	2,201	19.70	1,852	13.85	-15.86
	0-11歳	2,748	24.60	6,322	47.27	130.09
	12-17歳	8,424	75.40	7,175	53.65	-14.83

COESNICA (1992), UNICEF (1996) に基づき、筆者作成。
各報告書は、年齢レンジが異なり、実数と割合の表記が混在した。必要に応じて算出したが、1995年の年齢別人数の合計は13,373とは一致せず、報告書記載と表の増加率にも一部差異が生じた。

2. 元SC型ホームレスの低学歴問題の解決に向けて

1990年代、初等教育の就学児および未就学児が大量にストリートチルドレンとなった。ストリートチルドレンのうち、未成年路上労働者は労働に時間を割くために就学機会を失いやすいばかりではなく、労働による疲労や就学が将来の就業につながらない閉塞感などにより留年や退学をしやすい。未成年路上生活者はその生活形態のためにほとんどが就学を開始・継続できない。また、初等教育未就学児がストリートチルドレンになる場合、より就学機会を得にくいであろう。

1990年代のストリートチルドレンは、親世代の経済状況の悪化により路上での労働や生活を余儀なくされて初等教育の機会が、住居と同時に奪われたこともあった。彼・彼女らは著しく就学機会が奪われたために、路上での労働・生活においても困難を抱えていた。さらに、支援の重要性を理解し難いために社会復帰しにくいなか、支援の不足も加わり、就学・就業や定住の機会が継続的に奪われたのである。18歳で支援が直ちに打ち切られて元SC型となると、低学歴のために就業機会が得られずさらなる困窮状態に陥り、路上生活の長期化を招いたと考えられる。

元SC型は、低年齢でストリートチルドレンとなったために就学・就業・定住機会を継続的に奪われ、生活状況の改善が著しく困難となっている。路上生活から抜け出すためにより長期的な定住と就学・就業支援の実施が望まれる。

特に、1990年代に大量の初等教育未就学児がストリートチルドレンとなっている。就学機会に最も恵まれなかった彼・彼女らは現在、20代である。就学機会の提供は、ストリートチルドレンや若中年層ホームレスの従来型にとっても望まれる支援であるが、元SC型のなかでも1990年代に初等教育就学前にストリートチルドレンとなった若年層元SC型にとって、最重要支援の一つとなろう。

おわりに

本稿ではメキシコ市において顕在化しつつある若中年層ホームレスに焦点化し、これがストリートチルドレンから派生する問題であることを論じた。ストリートチルドレンが、施設職員の不足に加えて、ベンダー政策や麻薬戦争などの社会状況のもと、社会復帰することなく路上で成人し、元SC型となったことを示唆した。低年齢でストリートチルドレンとなった元SC型へは、就業を前提とする自立支援のまえに、日常生活支援と就学支援を必要とし、長期の定住型支援の実現が不可欠である。特に今日のメキシコ市では基礎教育²²⁾は、元SC型がストリートチルドレンとなった当時の初等教育のみあるいは初等・中等教育から、さらに延長され就学前教育から高校までを含む。今後は、就業に必要とされる就学期間の延びに対応した、長期の定住を伴う就学支援が重要となろう。

一方で、本稿ではホームレス問題全体や、ストリートチルドレン化の予防に寄与したと考えられる奨学金給付と条件付き現金給付政策については考察・検討できなかった。これらを今後の課題としたい。

【注】

- 1) 人口はINEGI 2015年を参照.
- 2) COPREDのHPを参照. なお, HPの掲載写真に映る人々の多くは, カサ・アリアンサやエドゥニカ(表2を参照)などやストリートチルドレン支援を行うYolia Niñas de la Calle A. C.などの財団法人を利用し, 筆者もストリートチルドレンの頃から知る.
- 3) 概況がわからない状況はホームレスの置かれる深刻さを示す一傍証であろう. 表1に示した成人路上生活者数は家族総合発展計画が把握するものであるが, 正確な数値としてではなく, 最低でも行政が認識している数値として示した.
- 4) 主に帰宅できない者や成人年齢に近い者を対象者に, デイケアや定住施設などを利用して就学・就業, 最終的には自身の収入で間借りして自立生活できるようにする.
- 5) 家庭環境によるが, 希望者を対象に家庭・地域・学校へと介入し帰宅できるようにする.
- 6) Progresa(1997年開始, 2002年Oportunidadesに継承)は一定の貧困削減効果を上げている.
- 7) メキシコ市大都市圏(La Zona Metropolitana de la Ciudad de México)の未成年人口の増加が緩やかになったこと, 都市下層の子どもが居住地域内において薬物密売などに勧誘されたなど, 複数の要因が複雑に関連しているものと考えられる.
- 8) メキシコ市官報およびCOPREDのHPに基づき言及する.
- 9) 都市の治安や衛生を守る色彩が強い.
- 10) ベンダーは階層的であり, 小分け菓子の行商から服の掛売り, 常設の露店営業まで様々な商品を多様な販売形態で商う. 必要とする知識・技術, 参入退出の難易度, 収入が異なる.
- 11) ストリートチルドレンの減少, 特に未成年路上生活者の激減は, 奨学金や条件付き現金給付政策が全体として都市下層の子どものストリートチルドレン化の予防に寄与したと考えられる.
- 12) 所在地・設立年・ミッションなどがデータベース化され, 登記内容に即した活動と年次報告書の提出が課される. なお, 支援を明記しないがストリートチルドレンに薬物依存治療や定住施設などを提供する団体は, 把握が困難なため本稿では除外した.
- 13) 2014-2018年にかけての団体のHPや年次報告書によると15団体の定住施設の年間総支援対象者数はおよそ1,500-2,000名であった.
- 14) 個々のストリートチルドレンが支援を受ける決意をし, 支援を継続して社会復帰するまでには長期にわたるきめ細やかで手厚い支援を要する.
- 15) 店付近のストリートチルドレンの世話を焼くオスク店主は, 1970年代に自身がストリートチルドレンだった頃と比較して, 当時は支援がなく仕事も得にくく, 必死に稼いだ. 薬物を使う余裕もなかったが, 最近(1990-2000年代)のストリートチルドレンは働かずラリってばかりだと証言している.
- 16) 路上における参与観察に基づく.
- 17) 民間支援団体での職員への聴き取りによる.
- 18) 民間支援団体での観察・聴き取りを通じて, 18歳が近づくと社会復帰を急ぐケースは頻繁にみられ, 聞かれた.
- 19) 民間支援団体での職員への聴き取りでは, 家出して路上にたどり着いたばかりの子どもの支援が容易になったと複数の証言が得られた.
- 20) 都市下層は1982年の債務危機以降, 支出を抑えることに限界があるため, 所得の確保にむけて15歳以上の女性と14歳以下の男子を労働市場へ新規参入者させた(畑 2001:79). 1992年時点で0-5歳が78人と少ないことを鑑みると, 債務危機以降1992年までに多数の者が初等教育就学中にストリートチルドレンになったと考えられる.

- 21) 1997年にストリートチルドレンの母子支援を行う民間支援団体が設立され、1990年代後半には「2世」が既に問題になっていた。
- 22) メキシコ市では、1993年に中学校教育の、2004年の基礎教育統合改革により就学前教育の、2013年には高校の義務化がはじまった。1990年代のストリートチルドレンの置かれた状況は国の教育制度や教育改革に逆行する現象であった。

【参考文献】

- Comisión Para el estudio de los Niños Callejeros, 1992, *Ciudad de México: Estudio de los Niños Callejeros*, COESNICA.
- Desarrollo Integral de la Familia, 2004, *Programa de Prevención y Atención a Niñas, Niños y Jóvenes en Situación de Calle "De la Calle a la Vida" Marco General de Operación*, DIF.
- , 2006, *"De la calle a la Vida en el Distrito Federal"*, México, México D.F.: DIF.
- Diane Davis, 1998, *The Social Construction of Mexico City*, *Journal of Urban History*, 24-3: 383-387.
- Gary Gordon, 1997, *Pesos and Power: the Political Economy of Street Vending in Mexico city*, The University of Chicago.
- Gaity Dieuveut, 2011, *The forgotten ones: Living conditions and Social functioning of street children in port-au-prince, Haiti*, Haiti; NACSW Convention Proceedings.
- 畑 恵子 2005 「メキシコの社会扶助—家族の変容と家族支援政策」宇佐見耕一編『新興工業国の社会福祉——最低生活保障と家族福祉』日本貿易振興機構アジア経済研究所：353-387.
- 原 稔 2008 「メキシコの教育変遷——カトリック教理教育からの脱却、信仰の自由への道程」『東洋哲学研究所紀要』24：110-90.
- Jorge Mendoza, 1994, *The Characteristics and Behavior of Street Vendors: A Case Study in Mexico City*, Ph. D. dissertation, Monterrey; Instituto Tecnológico y de Estudios Superiores de Monterrey.
- 小松仁美 2008 「『貧困の文化』の視点からみるストリート・チルドレン問題——現在のメキシコ連邦特別区（DF）の事例より」『淑徳大学大学院総合福祉研究科研究紀要』15：121-140.
- 2018 「メキシコ市における都市下層の子ども期とストリートチルドレン——都市下層の生活史から」『淑徳大学大学院総合福祉研究科研究紀要』25：65-80.
- Luis Otero, 1999, *Los Niños en la Calle y de la Calle: Problemática y Estrategias para Abordarla, México*, Academia Mexicana de Derechos Humanos.
- 丸谷雄一郎・小松仁美 2008 「メキシコ合衆国におけるストリート・ベンダーに関する一考察——生活条件を向上させていくのが難しい階層のライフヒストリーから」『愛知大学国際問題研究所紀要』132：73-99.
- UNICEF, 1996, *II Censo de los niños y niñas en situación de calle: ciudad de México*, UNICEF.
- 米村明夫 1998 「メキシコシティ人口の教育機会、収入と社会階層——1990年センサス1%サンプルデータの分析」『国際開発研究フォーラム』19：209-228.
- 2004 「メキシコにおける貧困克服のための社会・教育政策」日本貿易振興機構アジア経済研究所『ラテンアメリカレポート』21(2)：22-34.

【参考引用 URL】

COPREDの「ホームレス人口」 (2018. 6. 30 参照)

<http://data.copred.cdmx.gob.mx/por-la-no-discriminacion/poblaciones-callejeras/>

メキシコ市「官報2017年1月31日」 (2018. 7. 9 参照)

<http://www.sideso.cdmx.gob.mx/documentos/2017/Secretarias/styfe/Poblaciones%20Callejeras.pdf>

メキシコ市「ホームレス状態の人々」 (2018. 12. 13 参照)

<https://copred.cdmx.gob.mx/storage/app/uploads/public/5a1ef8/35a/5a1ef835a79ba819774826.pdf>

El Universal紙 2006年4月22日付「ストリートチルドレンは最低賃金の10倍まで稼ぐ」 (2018.7.23 参照)

<http://archivo.eluniversal.com.mx/notas/344516.html>

INEGI (メキシコ国立統計地理情報院) 2015年 (2018.5.20 参照)

<http://www.beta.inegi.org.mx/app/areasgeograficas/?ag=09#tabMCcollapse-Indicadores>

評価の方法「ベニート・ファレス行政区における定住型施設」 (2018.7.9 参照)

<http://www.delegacionbenitojuarez.gob.mx/sites/default/files/Albergues.pdf>